

## 評価委員会総合評価

研究課題名：全球及び日本近海を対象とした海洋データ同化システムの開発

評価委員

委員長：田中正之

委員：蒲生俊敬、中島映至、田中 佐、田中 博、渡邊朝生

評価年月日：平成 25 年 11 月 14 日

### 1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

### 2. 総合所見

本研究は、気象庁の海況予報業務やエルニーニョ予報業務等に使用される海洋データ同化システムの開発・改良を目指したものである。

本研究により、全球及び北西太平洋の海洋同化システムの開発、エルニーニョ予測システムの高度化や日本近海海況監視予測システムが構築され、目標としていた海洋長期再解析データの作成も完了したほか、平成 26 年度運用開始に向けて瀬戸内高解像度モデルへの対応、高潮モデルの改良とその現業導入が完了するなど、着実に成果をあげた。

特に、4次元変分法の導入により、沿岸現象に特有の短周期変動の再現性の向上、海洋中の水塊追跡、沿岸での異常潮位の再現等の面で顕著な改善が見られ、システムの高度化に大きな進展をもたらした。更に、改良された北太平洋海洋データ同化システム等は、現業システムに導入され、また成果の公表も適切になされている。

以上のことから、本研究は、適切な目標設定のもと概ね適切な研究体制で実施され、当初想定した成果が得られた優れた研究であったと評価する。

本研究で開発した客観解析、同化技術を駆使することにより、新たな知見が得られることから、引き続きデータ同化技術に関する開発・改良を進めるとともに、今後は、海氷密接度データの同化手法についても開発を進めて欲しい。